

改憲反対！ 武器輸出するな



小牧平和県民集会

2026年

9月27日（日）

アトラクション

12:30～

県民集会

13:00～

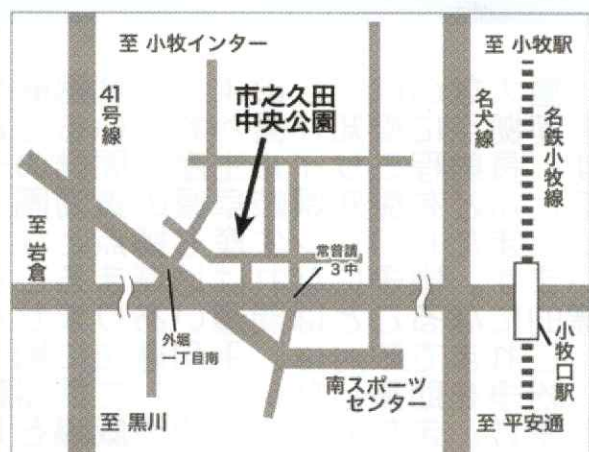
高市政権は、長射程ミサイルの初配備に続き、殺傷武器輸出の五類型撤廃を行い、平和憲法を破壊し戦争する国づくりの動きを強めてきています。

長射程ミサイル生産でも殺傷武器輸出でも、愛知県は軍産業の拠点となっています。いま、次期戦闘機の共同開発やオーストラリアへの護衛艦の輸出に続いて、フィリピンなどへの輸出が推進されています。さらにはミサイルの輸出、さらにはドローン技術の輸出につながる可能性が指摘されています。それは日本を「死の商人」国家へ変貌させる動きです。

戦争がはじまれば、長射程ミサイルの生産拠点である愛知は攻撃の対象となります。

戦争は始まってしまうと、止めることがなかなかできません。だからこそ日本がすすむべき道は、こうした「戦争の準備」ではなく、憲法9条を活かした「平和の準備」です。

これらの願いを小牧平和県民集会に持ちより、戦争する国づくりストップの声を示しましょう。



お問い合わせ

小牧平和県民集会 実行委員会

名古屋市東区葵1-22-26民主会館4階

☎052-931-0070

office@peace-aichi.net

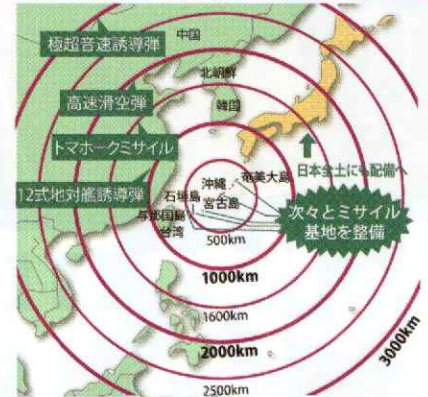
名鉄「小牧口」駅からマイクロバス

12時20分、12時35分、12時50分発

改憲反対!!武器輸出するな

「専守防衛」を超えた敵基地攻撃能力

政府は、長射程ミサイルの大量配備をすすめています。それは歴代の日本政府も「憲法上保有できない」としてきた攻撃的兵器（敵基地攻撃兵器）そのものです。これは、米国の「統合防空ミサイル防衛」態勢に組み込まれ、場合によっては他国を先制攻撃するものです。政府がこれまで建前としてきた「専守防衛」の立場をも投げ捨て、東アジア地域の緊張と核軍拡競争を激化させ、核戦争の危険をも高めるものです。



ドローン生産がすすむ愛知

小泉防衛大臣は、愛知でドローン生産をすすめる三菱重工やプロドローン、エアカムイの各社を訪問し、「年間100万台を超える生産能力を持てると自信を深めた」と発言。プロドローンは、愛知の豊和工業と共同開発し、爆弾投下装置を有するドローンを開発。戦争の最前線では、爆弾を積み込んだドローンが市民を殺戮することに使われており、このような兵器の開発も輸出も絶対に許してはいけません。



愛知を戦争拠点にさせるな！

重大なのは、このような武器開発の生産拠点到愛知が置かれていることです。長射程ミサイル生産・開発のそのほとんどを愛知県岐阜県の東海圏が担い、またドローン生産も拠点となっています。戦争になれば地域まるごとが標的になることは間違いありません。

これまで政府は、平和憲法に則って「紛争を助長しない」として武器輸出を禁じ、また武力の行使や威嚇をしないとして攻撃型兵器の保有を禁じてきました。

今こそ平和憲法の立場に立ち、対話によって戦争回避の道を努力する外交に踏み出すときです。

三菱重工小牧南工場（豊山町） 名古屋航空宇宙システム製作所

- F35戦闘機最終組み立て。F2戦闘機の生産
- 日英伊、次期戦闘機共同開発
- 無人機・ドローン開発、生産



戦闘機生産や次期戦闘機共同開発は、同工場が生産拠点となっています